



新春とはいえ、これから本格的な寒さの季節を迎えます。皆様に於かれましては、お健やかで良き年でありますよう、心からお祈り申し上げます。  
先ずは、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

◎今年度3団体が新たに加盟し、加盟団体は17団体になりました

加盟されたのは、次の団体です

- ・一般社団法人 交通事故被害者家族ネットワーク
- ・いきいき高次脳機能障害者の会 東京レインボー倶楽部
- ・杜のハーモニー♪

各団体の概要はこちらから：

<http://www.brain-tkk.com/npo/kaiin.php>

●予算要望書を10月7日東京都に提出し、前後して都議会各党派に理解を求めました  
[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=75](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=75)

●定例会

12月6日（火）夜、池袋アットビジネスセンター  
今年度活動実績、今後の活動確認他

●東京都練馬障害者支援ホーム 見学・意見交換会

12月6日（火）午後、練馬障害者支援ホーム

都身障の心障センター（肢体不自由者更生施設）の後継施設となる本ホームを見学し、指定管理者の法人職員と意見交換を行いました

<家族相談交流会>

●11月9日/多摩障害者スポーツセンター、12月7日/都身障センター

両日とも4家族4名が参加されました

==== 40歳、50歳の働き盛りの当事者を持つご家族は、少しでも早く復職し、家計を支える位置に戻ることを期待します。そうしたことが実現できるよう、支援の充実を切に望みます。 ===== 高橋

○1, 2, 3月にも開催致しますが、3月は初めて都の東部、北千住で開催します

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=76](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=76)

---

## 【2】関連団体等の活動

---

\*\*

- 世田谷高次脳機能障害連絡協議会 主催「春の音コンサート」  
2月5日（日）13:00～15:30、北沢タウンホール、参加費：900円

問合せ/申し込み：世田谷高次脳機能障害連絡協議会  
事務局(ケアセンターwith内) 植田 TEL：03-5829-8741

- 調布ドリーム主催 第16回ドリームサロン  
～高次脳機能障害を、知ろう、語ろう、もっと身近に～  
3月17日(土) 13時～17時、無料、調布市総合福祉センター2階（調布駅徒歩1分）

- ・講演「脳科学の立場からみた、高次脳機能障害の治療とリハビリテーション」  
中村俊規氏（表参道こころのクリニック院長）
- ・当事者と共に語り合う

申込/問合せ：調布ドリーム TEL 042-444-3068, [info@chofudream.com](mailto:info@chofudream.com)

---

## 【3】行政等の活動

---

\*\*

- 東京都高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会,10月5日(水)夜,都身障

- ・平成23年度 高次脳機能障害支援普及事業予定及び実施状況
- ・高次脳機能障害者就労準備支援プログラム利用者実態追跡調査報告
- ・小児期受傷・発症の高次脳機能障害児者の支援実態調査の実施状況報告 他

細見理事長が委員として、今井副理事長が傍聴人として参加しました

- 高次脳機能障害者相談支援研修会、  
11月28日午後、東京都社会福祉保健医療研修センター

講演1 「失語症のある方への対応について」  
初台リハ病院 教育研修部ST部門チーフ 森田秋子氏

- ・失語症について、失語症と認知機能、失語症者への対応

- ・ご家族の負担
- ・失語症をめぐる地域活動における言語聴覚士の役割

## 講演2 「失語症のある方の就労支援について」

障害者職業総合センター 社会的支援部門主任研究員 田谷勝夫氏

- ・高次脳機能障害における失語症の位置付け
- ・失語症者の就労実態
- ・調査研究報告書No.104の紹介、解説

==== 失語症に特化した講義を初めて聞きました。その結果、失語症と高次脳機能障害、そして身体障害が非常に近い存在、症状であることを改めて知りました。

報告書No.104によると、失語症障害者の約94%は身体障害（約半数が右片麻痺）を併発、高次脳機能障害を合併して発症している方の割合が90%、ということです。その結果当然ながら、失語症者へは、他の症状、特に高次脳機能障害・認知機能と関連付けた対応が求められるとのこと。過去の調査資料では復職者は10～15%、現職復帰者は5～10%、復帰が困難で仕事を引退した方が30～50%だというデータもあり、高次脳機能障害と同様に復職は難しく、特に現職復帰はさらに困難、という厳しい実態を再認識しました。

===== 矢野

## <港区 高次脳機能障害理解促進事業>

●第2回目～地域で進めよう、あきらめない支援～、11月8日、高輪区民センター

- ・高次脳能障害とリハビリテーション 武田克彦氏 国際医療福祉大学 教授  
三田病院神経内科部長リハビリテーション科副部長（医師）
- ・地域に於ける高次脳機能障害者支援 和田敏子氏 世田谷ボランティア協会  
事業部長 理事、ふらっと施設長（高次脳機能障害相談員）
- ・家族相談交流会…専門員による相談支援.....  
両講師および中村哲治氏 都心身センター 高次脳機能障害者支援担当  
池田敦子氏 TKK理事/NPO法人VIVID(ヴィヴィ)代表

==== 今回のテーマからもお分かりのように。港区地域の当事者、家族、一般区民のみならず、地域の行政・医療・福祉関係者など専門家への啓発と理解促進、及び地域の資源開発や改善に結びつけることを目的とした講演会でした。

そのために港区、周辺の当事者や家族、高次脳機能障害に関心のある方々 だけでなく、勤務している専門家達も業務の一端として参加出来るよう、平日に開催しました。

両先生の興味深い講演のあとに家族相談交流会が開催され、医療・福祉の分野の専門員による実践に即したご発言でしたので、相談なさった方々は多いに満足され、有意義だったとのこと。

遠くは、関西方面から参加したご家族もおられました。「東京はすごい。高次脳機能障害の理解と啓発に、各地域ごとにこのような講演会や相談会を開いているのですか」と感激されたのには、かえって戸惑いました。そう言われれば、東京も地域差があり、まだまだと思っているのですが、日本の地方、隅々に普及させるのは、それこそ、まだまだこれからのようです。==== 細見

- 第2回目～リハビリと対応、医療と福祉の現場から  
2月11日（土）午後、高輪区民センター、詳細は次を参照下さい

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=77](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=77)

○葛飾区講演会

- ・ 1月14日（土） 午後1：00～2：30  
「共に生きる 地域づくり」  
綿貫 吉治 氏（東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」）
- ・ 2月18日（土） 午後2：00～4：00  
「高次脳機能障害とは ～あせらず、あきらめず、自分らしい生活を～」  
長谷川 幹 氏（三軒茶屋リハビリテーションクリニック 院長）

会場は両日とも、ウェルピアかつしか1階、参加費、無料

問い合わせ・申し込み：

葛飾区地域活動支援センター 葛飾区堀切3-34-1 5698-1336

-----∞  
【4】寄稿 ー 月刊誌「地域リハビリテーション」編集部より \*\*

-----∞  
==== 「地域リハビリテーション」2011年10月号に[特集]高次脳機能障害治療・支援最前線が掲載されました。執筆陣は渡邊修先生以下6名で、最新の知見が述べられています。

<https://ssl.miwapubl.com/products/detail/1265>

地域のデイサービス、デイケアを担う施設・スタッフ向けの本誌で高次脳機能障害の特集が組まれたことを評価、注目し、編集部から特集を組んだ背景等について寄稿して頂きました。==== メルマガ編集

<特集「高次脳機能障害治療・最前線」（月刊『地域リハビリテーション』誌10月号）の掲載にあたって>

…… 三輪書店「地域リハビリテーション」編集室

月刊『地域リハビリテーション』誌は、病院や施設から地域・在宅で暮らすことが促進され、地域で暮らすための各種整備、サービスの充実が求められている中、地域リハビリテーションに関わる職種の方々に実践的なノウハウ、知識、情報などを提供することを目的に2006年4月に創刊されました。救命救急から在宅まで一貫したリハビリを提案することで機能回復訓練にとどまらない全人間的復権を目指したリハビリの啓発雑誌としてその理念を掲げています。主な読者は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、NS、ケアマネジャーの方々となります。

2011年10月号特集「高次脳機能障害治療・最前線」は、国による高次脳機能障害支援モデル事業(平成13～17年)の実施を契機に、高次脳機能障害に対する社会的関心が高まり、各地で医療と福祉の連続したケアを目指す試みが行われていることから、読者の方々に高次脳機能障害へ治療と支援に関する最新の知識をお届けすることを目的に企画されました。

小誌では高次脳機能障害は地域リハの実践にあたり非常に重要なテーマだという認識のもと、これまでもさまざまな特集や連載を企画してきました(「高次脳機能障害を地域で支える(2007年1月号特集)」、「高次脳機能障害者の就労(2007年4月号特集)」、「デイケアにおける高次脳機能障害の効果的プログラム(2010年連載)、など」)。近年は医療・介護現場での関心がますます高まってきていると感じております。

また、2012年1月号からの連載では、交通事故により高次脳機能障害となった方の受傷から回復の過程、現在の生活に関する手記を掲載いたします。障害のある方の心のありようを援助者に知っていただくことによって、よりよい支援につながればと考えています。

今後も障害像のみならず、実践的な支援、地域でのサポート、社会資源などの情報を発信し、障害のある方が安全に生き生きと暮らしていける地域づくりの一助を担えば幸いです。

以上